

「050」の活用でコスト削減 停電対策・FAX収容にも気配り

キャリアのIP電話サービスでSIPが主流となってきたことで、今後の企業向けVoIP提案にも新たな方向性が見えてきた。SIPソリューションに注力する岩崎通信機の嶋谷俊道氏に提案のポイントについて解説していただく。

SIPは、WindowsXPでの採用によってVoIPプロトコルの主力への道を開かれ、キャリア・ISP各社が提供を開始した050番号を用いたIP電話サービスの多くで採用されたことで、不動の地位を築いた感もある。

今後のVoIPネットワーク構築はSIPを基本として設計することが必須であるとともに、その構成機器もSIPをサポートしていることが前提となっていくものと思われる。

このような市場の変化の中で、企業向けのビジネスにおいても、SIPを用いたネットワークの特徴を理解し、ユーザーニーズに合ったソリューションをいち早く提案することが、顧客獲得に向けた重要なポイントとなる。

SIP網の構成要素とその特徴

まず、SIPを使ったVoIPネットワーク提案に必要な要素を整理しておく。

表に、各種ネットワークの得失を示した。インターネット電話、IP電話、

インターネットVPNは、NTT等の公衆回線の置き換えとして通信料および回線基本料の削減に寄与する。インターネットVPN、IP-VPN、広域イーサネットは、専用線による内線網のIP化を推し進めるとともにさらなる通信コストの削減を実現する。また、料金見合いで専用線を利用するほどでもなかったユーザーをVPNの世界に取り込めるようになる。

今後注目されるネットワークは050番号を用いたIP電話と広域イーサネットである。前者は、キャリア・ISP各社が今年最も注力するサービスの1つで、固定電話サービスの代替としてどのくらい普及するかが注目される。後者は、音声遅延を少なくできる可能性があるネットワークでSIPとも親和性がよい。

SIPネットワークを構成するもう1つ

の要素としてIP-PBX、ゲートウェイ(GW)等の通信機器がある。これらは大きく3種類に分けられる。

既存PBXを改良してSIPネットワークに接続できるようにしたIP-PBXシステム(IP Enabled PBX)

図1は、当社のIP-PBX製品「Acteto」を用いたネットワーク構成である。PBX本体へ050サービス対応ユニットと、IP電話機収容ユニットを挿入するだけでSIPネットワークが構築できる。050サービスはIP電話網経由で公衆網へも接続できるため、図中の支店のように公衆網を撤廃する構成も可能である。また、従業員1、2名程度のサテライトオフィスやオーナー社長の自宅など離れた場所にIP電話機だけを設置し、本社と同じ使い勝手を実現できる。

LAN接続を前提としたVoIPシステム(Telephony Enabled LAN)

図2にネットワーク構成を示した。基本的には音声とデータを統合し通信コスト削減を目指すため、既存の音声網およびデータ網をIP-VPNあるいは広域イーサネット等のIPネットワークへ変更する。ネットワーク上に設置された1台のSIPサーバーですべてのSIP電話機およびゲートウェイを制御できる。

IPセントレックスサービス
通信キャリアやISPから、オフィス

表 VoIP関連のサービスの比較

	長所	短所	対象ユーザー
インターネット電話	通話料金は無料	音声品質の保証がない	家庭
IP電話 (050番号付与なし)	グループISP間の通話は無料	独自番号がないのでサービス品目が少ない	中・小企業
IP電話 (050番号付与)	グループISP間の通話は無料、公衆回線の代替	多くの企業に採用されないため公衆網としてのメリットがない	小～大企業
インターネットVPN	ネットワーク構築費用が安価	セキュリティ、遅延が不安	中・小企業
IP-VPN	実績、品質が安定している 低速品目での料金が安い	遅延が大きい場合がある	大・中企業
広域イーサネット	高速品目でIP-VPNより安価、WAN設計の自由度が大きい	付加サービスがない	大企業